

実施回	資料名	項目	ご意見	対応・検討状況（事務局記載）
1	課題整理集	転出入状況	「若年層が住みやすくなるようなまち」にするための計画としてもらいたい。	本市を取り巻く課題として、子育て世代の転出超過が挙がっていますので、ご意見の内容を踏まえた計画づくりを行います。
1	課題整理集	転出入動向	転出者について、転出先市町の町単位に細分化して追いかければ、その理由やまちを選ぶ基準が見えてくるのではないかな。	令和2年度（1年間）の子育て世代（23歳～49歳）の転出傾向（多い4）を見ると、泉佐野市日根野、泉大津市東雲町、貝塚市小瀬、和泉市はつが野6丁目への転出が多い状況でした。 調べてみると、それぞれの地域では住宅開発が行われており、市境界付近への異動もみられます。また、泉佐野市日根野を除いては、南海本線沿線への異動傾向も見られました。一方、南部に行くほど土地価格の低下もみられ、土地価格が転出に影響しているものと考えられます。
1	課題整理集	経済循環率	地域経済循環率をみることで、人口減少により生じている課題がみえてくるのではないかな。	2010年から2015年までの5年間の推移は、70.6%（2010年）⇒70.9%（2013年）⇒73.1%（2015年）となっており、地域内での経済循環率が少し改善していました。この期間は、全国同様、岸和田市の1人当たりの課税対象所得の増加が見られるとともに、生産付加価値額の増加が見られます。 一方、他市からの通勤者比率も増加していますが、他市への通勤者比率も増えており、市内在住の市内労働従事者の比率が減っていると考えられます。
1	基本構想骨子案	論理的根拠	数値による根拠や方向性などもっと理論的に示していくのがいいのではないかな。	基本構想及び基本計画の中で、必要な数値データをお示ししていきます。
1	基本構想骨子案	3つの戦略	先端技術の活用を進める場合、財政的に厳しい現状ではあるが、テコ入れした施策を検討いただきたい。	施策横断的に展開していくイメージとして設定していますので、今後、実際の施策化の際に重点化していくことになるかと考えています。
1	基本構想骨子案	基本目標	歴史や文化など魅力ある岸和田の資源を通じて、子どもや若い人たちが魅力を感じ成長できるような戦略を計画に落とし込んでいただきたい。	基本目標「岸和田の次世代を育むまち」の中で、「芸術や文化への親しみや参画の機会を通して、心の豊かさの醸成を図る」ことや、「岸和田の歴史や文化財の保存・活用を進める」ことを位置付け、推進していきます。
1	基本構想骨子案	基本目標	岸和田の歴史や良い文化を継承し、良い資源のある岸和田を「だんじり+α」＝「だんじりだけじゃない」をPRしていただきたい。	基本目標「賑わいと活力を創造するまち」の中で、だんじりだけではない岸和田の多様な資源を活かし「まちのイメージを向上させる環境づくりを進める」ことを位置付け、これにより「岸和田の魅力が伝わっている」状態をめざし推進していきます。

実施回	資料名	項目	ご意見	対応・検討状況（事務局記載）
1	基本構想骨子案	3つの戦略	市役所の仕事をトランスフォームするには、先端技術の活用だけではなく、市役所の仕組みや制度自体を変えていかないといけない。	単に先端技術を行政運営に取り入れるだけではなく、Society5.0や新しい生活様式に対応できる行政運営に変革することが求められます。そのため、基本目標「みんなでつくる持続可能なまち」において、仕組みや制度の変革も含めて、「持続可能で信頼される行政になっている」状態をめざし推進していきます。
1	基本構想骨子案	指標	指標については、現在の計画では主観的なものが多いが、相関状況を見た上で客観的な数値を設定し、補完する形で主観指標を設定するようにしてもらいたい。	可能な限り客観的な数値での把握に努め、補完する形で主観指標を設定していけるよう、引き続き調整を行います。
2	基本構想素案	基本目標	市民の役割を深める方法や場づくり、市民が主体的に関わる意識の醸成など、地域を担える人材を育てる内容を位置付けてもらいたい。	市民が主体的に関わる意識などを醸成するためには、市民の役割を実際に実行していただく環境づくりが必要であると考えています。そこで、現在開催していることん懇話会で、「防災」を例に市民の役割に基づいて、自助の視点から実際に実行計画を立て、実施し、振り返る取組を実施しました。振り返りを通して、家族も含め、他の人に理解してもらうことの難しさを参加者である市民の皆様も感じられたとのことですので、引き続き、自分ごと化していくための仕組みについて検討を進め、計画に反映させたいと考えています。 また、学校では主権者教育が進められていますが、一方で、家庭での学びをどう作っていくかが課題であると認識しています。
2	基本構想素案	全般	総合計画を多くの市民に知ってもらえるような取組が必要である。	多くの方に総合計画や策定の取組を知っていただくため、今年度、6圏域で市民の皆様からご意見をいただく「ポスターセッション」を開催しました。また、今後、基本構想案のパブリックコメント時には、地域での意見交換会を開催するなどし、多くの方に関わっていただきたいと考えています。 そして、策定過程だけではなく、策定後も計画の進行管理などを通して、市民と一緒に考える機会の創出を検討していきたいと考えています。
2	基本計画骨子案	市民自治	地域の自治力の向上として、公民館の活用や地区市民協議会の活動など、市民の自治力の向上を基本構想の柱とするか、基本計画に書き込むかの検討が必要である。	各地域での活力を高めることが、市全体の活性化にもつながると認識しています。基本目標を横断する、岸和田を強くする"3つの視点"の「多様性を尊重しあう岸和田の絆の発展・活用」の中で表現するとともに、今後、基本計画においても重要性を盛り込んでいきたいと考えています。

実施回	資料名	項目	ご意見	対応・検討状況（事務局記載）
2	基本構想素案	3つの視点	岸和田を強くする”3つの視点”の展開イメージと個別目標との紐づけなどが分かりにくい。	基本的には、個別目標を含んだ基本目標全体に横ぐしを入れる役割として、岸和田を強くする”3つの視点”を設定しています。今後、基本計画の中で、読み手に分かりやすい表現を検討します。
2	基本構想素案	社会状況への対応	財政状況について、今後取り組む内容として広域的な連携だけではなく、「民間活力の導入」についても記載いただきたい。	P26に「ICT技術の活用、役割分担を踏まえた民間活力の導入」という文言を追加しました。
2	基本構想素案	地域コミュニティ	今後、持続可能な社会をめざすには、財政支出などについても全体のバランスを考えながら、進めていくことが重要である。また、地域コミュニティは市民中心で築くべきだが、行政に頼りすぎているところがあるので、現実を直視した計画としてほしい。	総合計画は、市に必要な施策を網羅的に位置付けるものですが、一方で限られた財源などの資源を有効活用するために「選択と集中」の視点をもって策定していきます。具体的には、4年ごとの基本計画の中で、重点施策に関する内容を明らかにし、事業を推進することになります。 地域コミュニティへの支援については、今後、地域の実情に応じた取組を行うことがより一層求められていると考えています。
2	基本構想素案	協働	地域の課題やその解決のための取組に対して、行政からのフォローアップが必要だと考える。	地域の取組に対する行政の役割や関わり方について、見直しをすべきタイミングにあると認識していますので、基本計画で行政の役割を示していきたいと考えています。
2	基本構想素案	生活圏について	P15（現P16）について、生活圏とすると市外も含まれることになる。「コミュニティ単位」という表現の方が適切ではないか。	本ページは、コミュニティ単位の説明になっていますので、タイトルを「コミュニティの単位」に修正しました。
2	基本構想素案	位置と地勢	P12について、タイトルが「位置と地勢」になっているが、地勢の記載がないため検討が必要である。	地勢については、P15「地形の特徴」で記載していますので、ここでのタイトルは「位置」に修正しました。また、読み手の理解を促進するため、全国や大阪府からみた本市の位置や、本市の全体図を追加することとしました。
2	基本構想素案	Society5.0	P8（現P7）の「Society5.0」の説明は、ミスリードが生じる可能性がある。表現を工夫すべきである。	ここでは技術革新について記載することとし、Society5.0はP25に記載することとしました。
2	基本構想素案	将来人口について	目標人口を具体的な数値で設定した方がよいのではないか。	目標人口の設定・表現方法については、引き続き検討します。
2	基本構想素案	多様性について	先端技術などの新しい産業の場づくりには、これまでにない新しい人材の確保が必要であり、事業者、住民の多様性をどうまちづくりに活かしていけるかが大切である。また、市民自治都市の実現や、市民の自治力向上のためには、家庭での意識や教育が重要であり、計画の中の柱として検討していくべきである。	持続可能な地域を作っていくためにも、多様性を受け入れる地域づくりが必要と考えます。岸和田を強くする”3つの視点”の「多様性を尊重しあう、岸和田の絆の発展と活用」はそのことを意味しています。 また、市民自治を向上させるための家庭における学びの創出も必要だと認識しています。

実施回	資料名	項目	ご意見	対応・検討状況（事務局記載）
2	基本構想素案	地域づくり	だんじり祭も担い手の問題が大きくあり、青年団なども人が減っている。地域づくりについて考え直す必要がある。	だんじり祭をはじめ地縁団体への加入・参画が減っているという現状から、地域においては、大切にすべきものを引き継ぎながらも、これまでと同じ取組を続けるのではなく、変わっていくことが必要ではないかと考えます。これまでの取組の見直しをはじめ、多様な人が関われる機会や環境をつくっていくことで、すそ野を広げることができるのではないかと考えています。
2	基本構想素案	一次産業の活性化	第一次産業に従事する担い手が不足している現状がある。第一次産業が衰退すれば、市民全体の生活に悪影響を及ぼすことは目に見えているため、行政の支援が必要だと考える。	少子高齢化などの影響により、第一次産業等の担い手不足が生じています。当事者だけではなく、行政や民間も協力・支援しながら、若い方や女性などの様々な担い手が従事しやすい環境構築が求められるとともに、第一次産業の魅力を伝えていくことが必要だと考えています。
2	基本構想素案	将来像	将来像の文言に「ノーマライゼーション」という文言を追加できないか。	将来像の中の「個性きらめき」という文言の中や、岸和田を強くする”3つの視点”の「多様性を尊重しあう、岸和田の絆の発展と活用」の中で、ノーマライゼーションの考え方を含む「多様性の尊重」を表現しています。